本学創立106周年式典

日本歯科大學新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼編集人　中原　泉
発行日　偶数月末日
定　価　1部10円
編集室　（〒951-8580）
新潟市中央区浜浦町1-8
☎025（267）1500

本学のシンボルマーク

三百余名が参列

本学の創立一〇六周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見で挙行された。テキサス大学のパワーズ教授、トゥルク大学のハポネン教授への名誉博士号授与式もあわせて行われた。

日本歯科大学創立一〇六周年記念式典は、六月一日、来賓、教職員、卒業生、学生等三百余名が参列して、生命歯学部富士見ホールにおいて挙式された。

定刻午前十時半、司会の鈴木洋一庶務部長が開式を宣し、筑土神社祭司が神事を執り行った。

本学の一世紀余の沿革が祝詞で奏上されたのち玉串奉奠に移り、中原泉理事長・学長がホール壇上に設けられた神前に進み出て玉串を奉奠。参列者は二礼二拍手一礼をもって同拝した。

参列者を代表して、中原レチ子、小倉英夫、住友雅人、湯浅太郎各理事がおのおの玉串を捧げた。

神職の退場のあと、中原理事長は本学創立一〇六周年を迎え、式辞を述べた（要旨は二面に掲載）。

ついで近藤勝洪校友会長が挨拶に立ち、「校友会本部では今年度、創立者中原市五郎先生の功績集を作成することを決めた。歯科医療・歯科医学の黎明期においてどれほどの苦労をされ、業績をあげられたかを校友会として残していきたい。

東日本大震災が発生してから一年二カ月が過ぎたが、被災した先生方の会費の減免などを行いながら支援を続けたいと思う。今はどんな大規模災害がいつ、どこにおきても不思議ではない状況にあり、支援のあり方も含めて検討しなければならない。日本歯科大学の発展は、強いリーダーシップを持った先見性のある指導者のもとで進んできた。他大学の同窓校友会からは、日本歯科大学校友会の強い団結力が羨望の眼で見られている。団結をさらに一層強めたい」と述べた。

そののち、名誉博士号授与式にうつった。小倉英夫新潟生命歯学部長が、テキサス大学歯学部のジョン・M・パワーズ教授を、住友雅人生命歯学部長は、トゥルク大学歯学部のリストペッカー・ハポネン教授を紹介した。

まず小倉歯学部長は、「今から三十四年前、私がミシガン大学に留学したとき、パワーズ先生は助教授だった。面倒見がよく、私や宮川行男教授も公私にわたってお世話になり、今も新潟の理工学講座と共同研究を進めている。現在はテキサス大学の教授だが、もう一つ、彼自身にとって非常に興味ある仕事、歯科材料の紹介雑誌である『デンタル・アドバイザー』の編集長を三十年来務めている。同誌を通じて、有効な材料に関する情報を教えてもらっている。本学でも多勢の教職員がお世話になった」と紹介した。

住友歯学部長は、「ハポネン先生とは一九八一年の二月に初めてお会いした。そのとき彼はアメリカのヒューストンから帰ってきたばかりで、若手の病理学者であり口腔外科医だった。ヒューストンは腫瘍のサンプルが多い場所だと言っていたのを覚えている。ハポネン先生は、ミュージシャン、サクソフォン奏者でもある。六月四日に九段ホールで講演会を予定しているので、是非お越しいただきたい」と述べた。

中原学長は、パワーズ教授には昨年名誉博士号を授与する予定だったが、大震災の影響で本年になったと述べたのち、パワーズ教授に第十四号、ハポネン教授に第十五号の日本歯科大学名誉博士号を授与した。

ついでパワーズ名誉博士の謝辞を宮川教授が、ハポネン名誉博士の謝辞を住友歯学部長が通訳し、ハポネン博士から、トゥルク大学の記念誌が中原学長に贈呈された。

永年勤続者表彰にうつり、三十年勤続十三名、二十年勤続十五名の名が呼び上げられた。表彰者が登壇し、代表が中原理事長から表彰状を授与された。

永年勤続表彰者を代表して、小菅直樹教授（新潟短期大学）が、「日本歯科大学は、百年以上の歴史のなかで、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士を多数輩出している。

高齢社会が到来した現在、国は歯科が国民の健康的な長寿に大きな役割をもつことを認め、法律として施策をうちだした。百年の時を経て創立者中原市五郎先生の志が形になった。日本歯科大学の建学の精神を身につけた卒業生が研究、教育、臨床の現場で活躍し、歯科界を通じて日本の社会に貢献している。今後も人材の育成に努めたい」と謝辞を述べた。

ついで、司会者から鴨井久一名誉教授をはじめ、列席した来賓が紹介され、万雷の拍手を浴びた。おわりに附属病院コンサート担当アンサンブル部コーチの阿部恵一講師の指揮で校歌を斉唱し、十二時に閉式した。

創立106周年式典で祭壇に玉串を捧げる中原泉理事長（左端）

名誉博士号の学位記を手に
右からパワーズ教授，中原学長，ハポネン教授，ハポネン夫人

公告

学校法人日本歯科大学の理事を、次のとおり公告する。（任期：平成二十四年八月七日から平成二十六年八月六日まで）

理事長　中原　泉
理事　中原レチ子
理事　小倉　英夫
理事　住友　雅人
理事　湯浅　太郎

学校法人日本歯科大学の監事を、次のとおり公告する。（任期：平成二十四年八月七日から平成二十六年八月六日まで）

監事　高橋　賢一
監事　佐々木　章

平成二十四年八月七日
学校法人日本歯科大学

学校法人日本歯科大学の評議員を、次のとおり公告する。（任期：平成二十四年七月三十一日から平成二十六年七月三十日まで）

評議員　中原　泉
評議員　高橋　慎一
評議員　住友　雅人
評議員　羽村　章
評議員　小倉　英夫
評議員　関本　恒夫
評議員　坂井　一博
評議員　近藤　勝洪
評議員　稲垣　明弘
評議員　小島　静二
評議員　冨田　武夫

平成二十四年七月三十一日
学校法人日本歯科大学

柴崎教授（新潟・内科学　新潟短大学長）最終記念講義

新潟短期大学学長で、新潟生命歯学部内科学講座の柴崎浩一教授の最終記念講義が、七月十一日にアイヴィホールで行われ、多くの教職員、大学院生、学生が聴講した。柴崎教授は新潟大学医学部卒。昭和五十六年に本学内科学講座教授に就任し、平成二十二年からは新潟短期大学学長を務めた。

「32年間の大学生活を振り返って」と題した五時からの講義では、ラグビー部顧問としての逸話、研究テーマのピロリ菌などについて語った。

講義終了後、小倉英夫新潟生命歯学部長が記念品を、短大や講座関係者等が花束を贈呈した。

（写真・左はVサインをする柴崎浩一教授）

アジアのトップ校

香港大学と姉妹校提携

Faculty of Dentistry, The University of Hong Kong

十七校目の姉妹校、香港で調印

▽…本学では、かねてから中国の香港大学歯学部と学術交流活動を行ってきた。このたび同大学と姉妹校の提携を結ぶこととなり、国際交流担当の小倉英夫新潟生命歯学部長と、新谷明喜教授（東京・補綴Ⅱ）が香港特別行政区を訪れた。七月四日、香港大学歯学部においてサマラナヤク歯学部長と姉妹校の提携書に調印した。

調印を終えてサマラナヤク（Professor Lakshman P.Samaranayake）歯学部長と握手する小倉新潟生命歯学部長（左から４人目），同じく３人目は新谷教授

香港大学と歯学部

香港大学の校章

人口約七百万人の香港特別行政区は、一九九七年七月一日にイギリスから中華人民共和国へ主権が移譲された。

香港大学（The University of Hong Kong）は、英語で授業を行う香港最古の大学であり、アジア最良の大学のひとつに挙げられている。前身の香港西医書院には、中国革命の父・孫文が学んだことでも有名である。

大学は一九一一年に創立され、歯学部、医学部のほか十学部があり、二万一六五二名の学生が在学中。同歯学部と附属のThe Prince Philip Dental Hospitalを一九八二年に開設した。歯学部は二十四講座、教授四十二名を含めて、十六カ国からの二〇一名で運営される。

教育課程は五年制で、学部学生は二六七名、卒後学生は一一四名、PhDコースは七十一名の総数四五二名。世界十八カ国から学生が集まり、歯科医学の学習と実習にPBL教育を採用する。アジアの歯学部ランキング一位の実績を誇っている。

日本歯科大学姉妹校

1971年	中山医学大学（台湾）
1984年	ミシガン大学（アメリカ）
1985年	パリ第７大学（フランス）
	四川大学華西口腔医学院（中国）
1986年	ベルン大学（スイス）
	ヘブライ大学（イスラエル）
1987年	ブリティシュ・コロンビア大学（カナダ）
	マンチェスター大学（イギリス）
1988年	マヒドン大学（タイ）
1991年	トゥルク大学（フィンランド）
1992年	フィリピン大学（フィリピン）
1993年	ペンシルベニア大学（アメリカ）
1997年	アデレード大学（オーストラリア）
	オタゴ大学（ニュージーランド）
2005年	モンゴル健康科学大学（モンゴル）
2008年	メリーランド大学（アメリカ）

堂々とPRしよう

理事長・学長　中原　泉

創立式典式辞要旨

国立大学と私立大学の根本的な違いを述べたい。国立大学は、国が設置者で政府の政策によって設置される。国立大学には建学の精神はなく、創立者もいないが、私立大学は、個人・有志による学を興す者＝興学者の自治である。「自分で治める」という、建学の志によって創立される。どちらがいい悪いということではなく、私立として自分たちの立ち位置が、そこにあることを十分に認識しておく必要がある。

戦前は大学は一貫して官立（国立）重視で、戦後、特に昭和四十年代に入り、大学の大衆化の波が押し寄せた。私立が激増して、今では大学の八割を私立が占めている状況である。国は、国立と私立の役割分担を考え、大学の質は国立で、大学の量は私立でという位置づけをしてきた。歯科教育においても明治三十九年に旧歯科医師法が制定されたとき、富国強兵の時代であったこともあり、国は歯科教育を一顧だにしなかった。全てを私立に押し付けた、よく言えば一任した状態だった。その流れが今なおつづいており、国の歯科医療の軽視、歯科教育への無策、現状はこの二つに尽きると言ってよい。

さらに近年、国立大学法人化により、国立の歯学部は地盤沈下した。彼らは本当に意気消沈している。私立の歯学部も、大学全入時代に突入したためガタガタになった。この五年、十年で歯科界がどうなるか、どう立ち直るのか、あるいは立ち直らないのか、そのあたりは混沌としている。

その中で日本歯科大学は、間違いなくフロントランナーとして独走している。自画自賛ではなく、世界最大の歯科大学であり、本学は東京と新潟を含め、他の国立・私立の歯学部が手を染めていない独自な活動を五指十指に余るぐらい展開している。創立の志に培われた愛校心、そして反骨精神が原動力になっている。

今は謙虚や謙遜は美徳ではない時代になっており、遠慮することなく、堂々と自己PRしてよい。自信をもって自己主張すべきだろう。黙っていては誰も振り向いてくれないので、大声を出して自分の存在を示し、価値を世に知らしめる必要がある。そうするといつの間にか、世の中の人は日本歯科大学を認めてくれるようになり、気がつけばトップになっている。

本日創立一〇六年の年に巡り合ったことを大変幸せに思っている。これからも、教職員のみなさんのご尽力をお願いしたい。

（６月１日）

永年勤続者

☆三十年勤続表彰

（生命歯学部）
柴田　潔（化学）
青木春美（歯科理工学）
太田　進（教務・学生部）
佐藤住美江（解剖学２）

（附属病院）
宗村　治（総合診療科２）
野村なるみ（口腔外科）

（新潟生命歯学部）
野﨑敏明（用度営繕部）
長谷川仁（病理学）
塚田なおみ（耳鼻咽喉科学）

（新潟病院）
山崎明子（歯科衛生科）

（医科病院）
渡邊茂子（看護科）

（新潟短期大学）
小菅直樹（歯科衛生学科）
佐藤律子（歯科衛生学科）

☆二十年勤続表彰

（生命歯学部）
松野智宣（口腔外科学）
宮島靖志（人事部）
中世古大介（教務・学生部）

（附属病院）
石井隆資（総合診療科３）
荘司洋文（口腔外科）
白瀬敏臣（小児歯科）
光安廣記（総合診療科１）
田中秀弥（薬剤室）
守重松代（看護科）
黒澤歌代子（事務部）

（東京短期大学）
竹井利香（歯科技工学科）
赤間亮一（歯科技工学科）
関口洋子（歯科衛生学科）

（新潟生命歯学部）
梨田智子（生化学）
宮崎晶子（歯科衛生学科）

（新潟短期大学）

口腔インプラント学会理事長に渡邉教授（新潟）

新潟生命歯学部歯科補綴学第二講座の渡邉文彦教授は、六月十七日付で公益社団法人日本口腔インプラント学会の理事長に就任した。同学会は、日本歯科医学会に所属する二十一専門分科会中最大の学会で、会員数は一万二千余名を数える。

最新刊

機能水ではじめる ヒトと環境に優しい 歯科臨床

エビデンスに基づいた電解機能水の院内感染対策，歯科治療，口腔ケアへの応用

編著：鴨井 久一 他
著：
青木 春美／佐藤 勉
鴨井 久博／川村 浩樹
佐藤 聡／両角 祐子
吉田 隆一 他

電解機能水応用の実際を、写真・イラストで手順を追って解説。歯科処置への応用の有効性・安全性や、金属腐蝕の問題等についても、科学的根拠を示して詳説しています。

A4判　128頁　定価5,040円（税込）　ISBN978-4-901894-97-5

砂書房　〒113-0033 東京都文京区本郷3-13-5
TEL 03-3814-6251 FAX 03-3814-6285
http://www.sunashobo.com